第５学年実践事例　「くらしを支える情報」　からの抜粋

◎単元名　　くらしを支える情報

◎単元について

・自ら考え，学びを深め合う授業をめざして

本単元の７時間目では緊急地震速報について取り上げる。まず，緊急地震速報がなかった昔と比較し，実際どの程度役立っているのか伝え合う。その後，緊急地震速報をよりよく活用するにはどうすればよいか考える。自分の考えは，根拠を基にワークシートに記述させる。話し合い活動では，子どもたちが出した理由や根拠を基に，これまでの学習を活用させながら多面的な見方，考え方を出させるように支援したい。情報があるから大丈夫と思うのではなく，上手に利用することが大切であり，なんとしても生き延びる方法を考えるきっかけにしたい。８時間目では，東日本大震災で被災した名取市の情報利用の資料を見て，名取市では防災情報を活用できていない人が５０％もいることに気付かせる。防災情報を有効な情報として役立てるためには，緊急地震速報機器がどこにあるといいのか，また防災情報のよりよい入手手段を考える。昭和南海地震の体験者の話と東日本大震災の記録映像から，地震に対する危機感や命の大切さを感じ取らせたい。その際，双方向性を重視し，周りの人々と連携を取りながら避難することの大切さにも気付かせたい。本時では，情報化社会の光と影に目を向ける。東日本大震災に関する２種類のメール（エリアメール・チェーンメール）から，情報の受信者としてメールをどのように判断するかを考えさせる。・・・・・・・・

◎単元の目標

○放送，新聞などの情報産業が様々な情報を提供し，自分たちの多くがそれらを多方面で利用していることについて，調査したり資料を活用したりして調べ，情報化の進展が自分たちの生活や産業の発展に大きな影響を及ぼしていることを考えることができるようにする。

○情報ネットワークを有効に活用して公共サービスの向上に努めている防災などの事例について資料を有効に活用したり，インターネットで情報を収集したりして調べ，それらの働きが，人々の生活を向上させるために利用され，自分たちの生活にも様々な影響を及ぼしていることについて，とらえることができるようにする。

○情報化した社会において，情報を有効に活用するために大切なことについて考えるとともに，様々な情報に対して適切に判断し，望ましい行動をしようとする能力や態度を身に付けるようにする。

◎学習指導計画・評価計画（全１２時間）

○内の数字・・・時間数　　○学習活動　　◎関心・意欲・態度　　●思考・判断・表現

＜　＞内・・・評価方法　　■観察・資料活用　　△知識・理解　　・児童の予想

		目標	学習の流れ（学習活動・児童の反応）	評価規準・支援（※）
課題をつかむ・予想する	①	自分たちの生活は，様々な方法で情報を手に入れ，役立てていることを理解することができる。	私たちは，どこからどんな情報を手に入れているのだろう。 ○様々な情報源を出し合い，自分たちの生活が様々な情報に支えられていることを知る。 ・高知県は台風や大雨が多いので台風情報や地震の情報を見ている。	△自分たちが得ている情報や情報手段について考えることができる。 ＜ワークシート＞

	②	情報伝達手段の特性を考慮しながらそれぞれの長所や短所を考え，学習課題を作ることができる。	メディアのよい点，問題点を探ろう。 ○様々な情報伝達手段の長所・短所を考え，学習問題を作る。 ・テレビは，ニュース速報や中継などで大事な情報を速くすることができる。 ・地震の時は，緊急地震速報が流れる。 ・携帯にも災害用伝言板がある。 ・情報で命が守られている。	●生活経験の中から情報伝達手段の長　所や短所を考えることができる。 ＜ワークシート＞
調べる・追究する	③ ④	災害情報ネットワークについて課題別に調べ，伝え合うことができる。	災害から身を守るためのネットワークは，どのように活用されているのだろう。 ○課題別に調べたことを伝え合う。 ・緊急地震速報の仕組みについて伝える。 ・過去の水害状況や情報網について伝える。 ・子ども安全連絡網について伝える。	△緊急地震速報の仕組みを知る。 ＜発表・ノート＞
			⋮	

◎指導の実際

【第１・２時】学習問題をつかむ・課題を考える

導入として，まず自分たちの身の回りの生活を見つめることから始めた。自分たちが様々な情報に触れ，また活用しながら生活をしていることに気付かせるために地域の看板やポスターの図を資料として提示した。その中からたくさんの情報源を子どもたちに見つけさせ，どのようなよさや問題点があるのかを考えさせた。「地震の時にテレビで緊急速報が流れる。」「携帯電話に防犯機能がある。」「看板で交通情報が分かる。」など，自分たちの生活が情報によって守られていることに気付いた。特に子どもたちは自分の学校にある看板に着目していた。昭和小の地域は海抜ゼロメートル地帯であるため大きな地震の際には必ず津波が来ると言われている。「地震が起きる時のネットワークはどのようになっているのか。」という疑問が出され，今後授業で考えたい学習問題を大きく３つに絞り，各々が調べる学習に進んでいった。

【第３・４・５・６時】予想する・調べる・情報をまとめる

子どもから出された災害情報ネットワークについて，課題を次の３点に絞って調べ学習を行った。

・緊急地震速報の仕組み　・高知県の過去の震災関係　・安全連絡網などのネットワーク

また，実際に体験している人から話を聞きたいという意見が出され，調べ学習後には地域の昭和南海地震の体験者の方や気象台で働いている方から話を実際に聞いた。調べた情報を伝え合う中で，災害情報のネットワークの仕組みについて詳しく知ることができた。子どもたちは地震体験の話から，昔は情報を得る仕組みが十分でなかったことにも気付き，比較することができた。調べたことは，ノートにまとめたり新聞を作ったりしながら表現させた。その際は，課題についての予想を立て，調べた結果と予想を比較しながら考えを書くなどの手立てを行った。‥‥‥‥

⋮